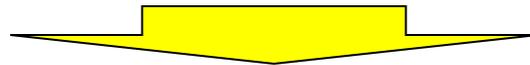


学認SPコミュニティの立ち上げ

2024.9.17
鈴木 彦文

学認参加の動機

1. 学認への参加対象となる機関が学認に参加する必要がある出てくる事象の発生(例えば RDM や OA など学認SPの利用が必須になるなど)
2. 機関が学認に参加する意味を見出せる学認 SP(Service Provider)の拡充
3. 機関が学認に参加することでコスト削減が実現
4. なんらかの形で学認に関わろうとする・参加しようと希望する機関・プロジェクトへの対応・支援



**2. を達成するため、学認 SP 改良・開発・開拓・発掘
学認SPコミュニティの充実がポイントの一つ**

学認SPコミュニティ拡大のために

学認SP研究会の実施

- スモールスタート
- AXIES 2024 前日(2024年12月9日(月) PM)に学認SP研究会を企画(発表者・参加者募集)

大学発SPの普及(学認SPだけでなく)

- 大学で開発・改良した SP の普及支援
- 大学や開発者のインカムに繋げる

学認SPに関する情報発信

- NII では発信力に限界があるが積極的に行いたい
- 機関から見てわかりやすい SP の CM サイトの構築

AXIES 前日に学認SP研究会を企画

- 機関におけるさまざまなサービスの構築・運用に携わる教員・職員、およびサービス提供者が一堂に会する
- 実践的な知識とノウハウを共有する
- オンライン学習、リモートアクセス、コミュニケーション、キャリア支援などの幅広い分野にわたる具体的な事例を紹介する
- 参加者同士が学び合い、機関のサービス向上に貢献するためのコミュニティを形成することを目指す

学認SP研究会(発表者・参加者募集)

セッション1：(仮) 大学からみた SP の構築や運用

- S1-1：ShinTube (新村 正明先生@信州大学)
- S1-2：大学の取り組み
- S1-3：大学の取り組み

言いたいことある方、
募集中！推薦も可

セッション2：(仮) SP ベンダー・メーカーからの提案

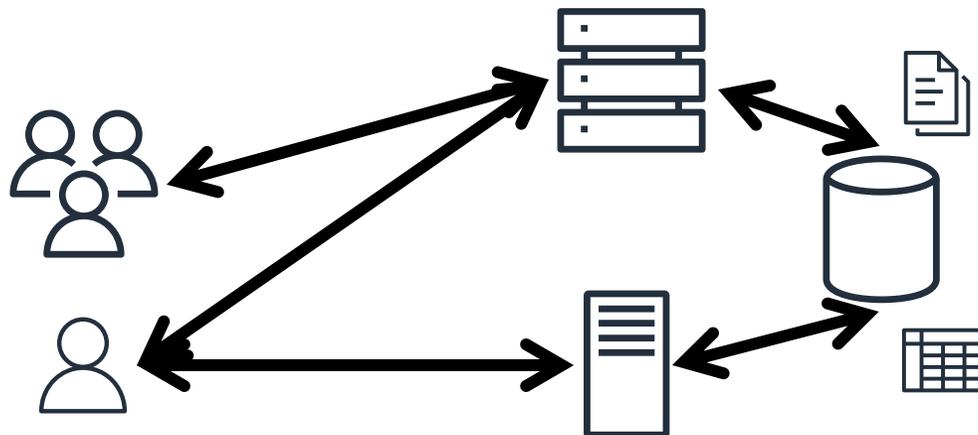
- S2-1：大学への SP 導入 (塚田 亮一様@アシアル, Asial)
- S2-2：TIES <https://www.cties.jp/> (堀 真寿美様@NPO法人 CCC-TIES)
- S2-3：GakuNinLMS (古川 雅子先生@NII)

学認SPコミュニティアイデアノート1

研究

- 機関共有の計算資源・データベース
- 大学ローカルの計算資源
- プロジェクト拡大による外部連携の必要性

複数の研究者が効率的にデータ解析や計算を行う。大学ローカルのデータベースや計算資源も重要なリソースとして、研究プロジェクトや研究チームにとっては不可欠。

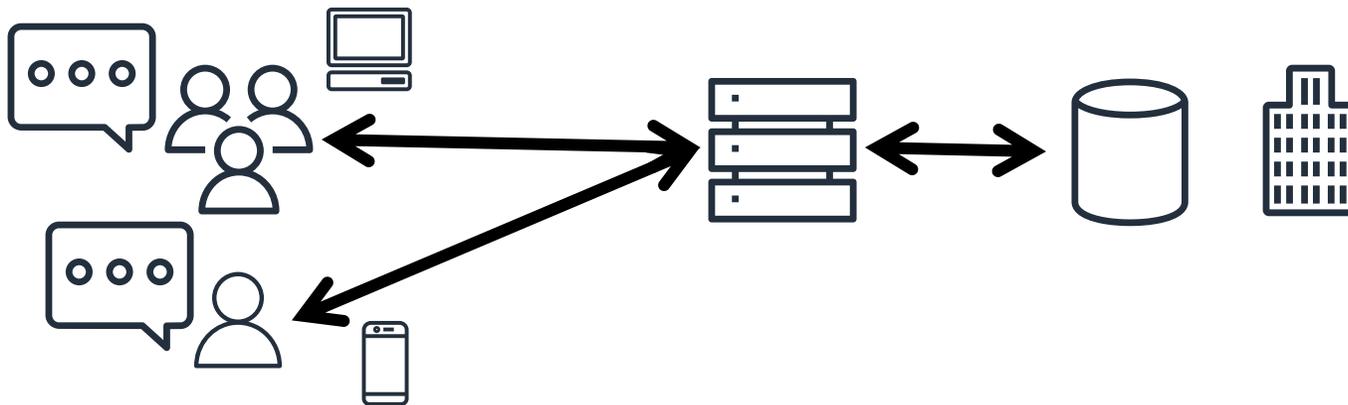


学認SPコミュニティアイデアノート2

教育

- LMS は重要なSP
- LMS ではカバーできない領域
- 小中学校・高校にもリーチできないか

リモート学習やハイブリッド型の授業スタイルが普及する中、より柔軟でアクセスしやすい学習管理システムや教育リソースを提供することにより、幅広い層の学生に対応。教育の現場をさらに多様化させ、質の向上に寄与。

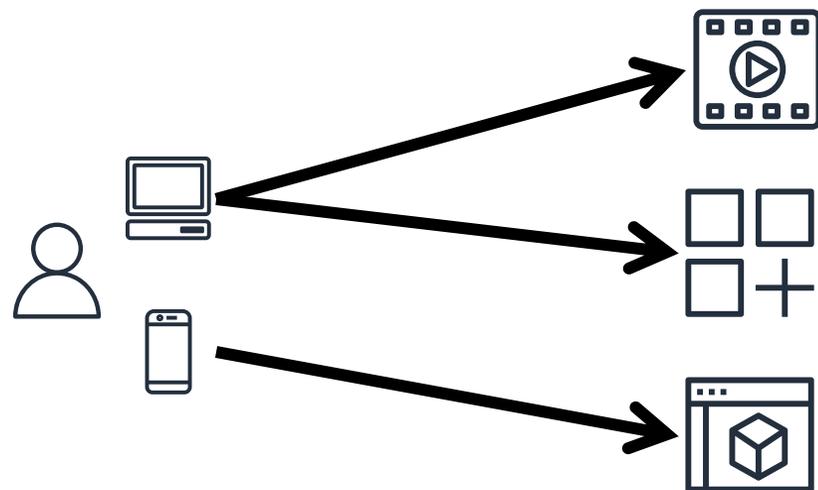


学認SPコミュニティアイデアノート3

学生生活支援

- 割引などの学生生活全般をサポート

飲食店や映画館、書籍購入、さらには旅行やイベント参加など、学業以外の部分でも大きな恩恵。
学生生活全体の質を向上。

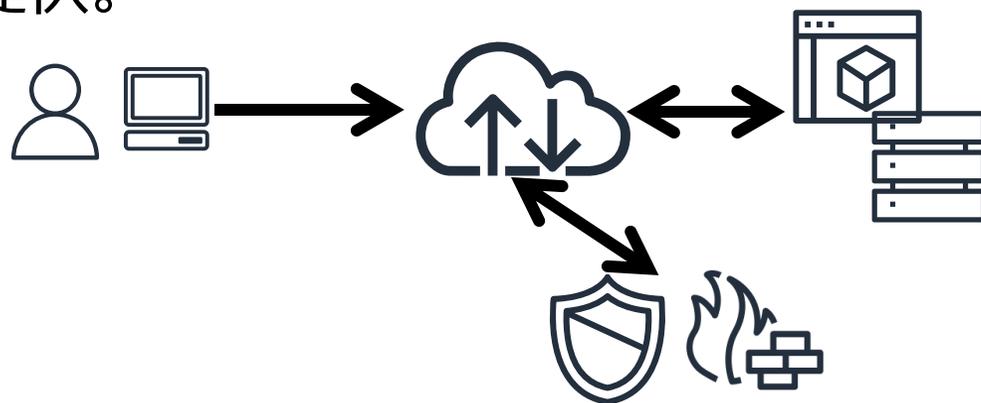


学認SPコミュニティアイデアノート3

セキュリティ

- ネットワークでカバーするのではなく個々の教職員学生に対してのサービス
- 認証ネットワークの拡張(認証ネットワーク)
- ゼロトラストネットワーク(SASEなど)

認証の最新技術を取り入れ、個々のユーザーに対する高度なセキュリティサービスを提供することで、多様化した教育環境に対応しつつ、安全な学習・業務環境を提供。

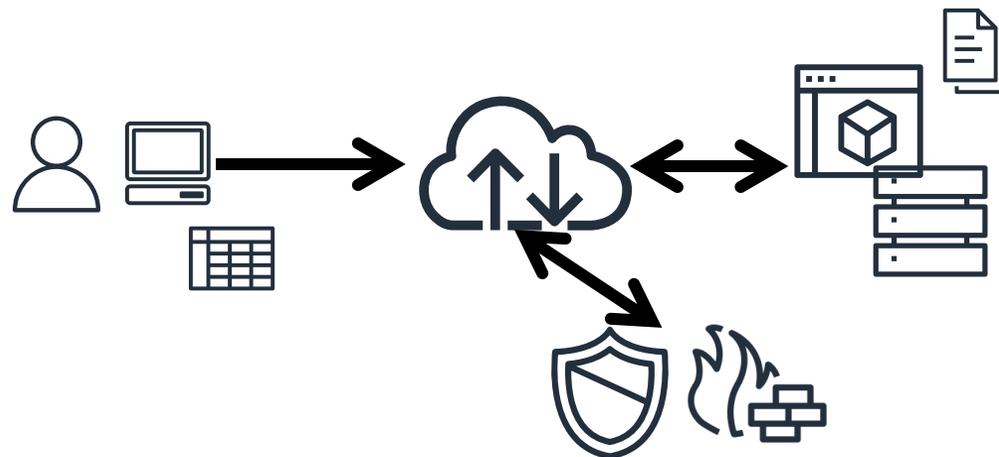


学認SPコミュニティアイデアノート4

コンプライアンスの遵守

- 研究データの取り扱い
- 成績などの個人情報や機関内情報の取り扱い

研究データや個人情報の取り扱いにおいて、コンプライアンスを遵守したセキュリティ対策や管理システムを提供することで、教育機関や研究機関の信頼性を支える。

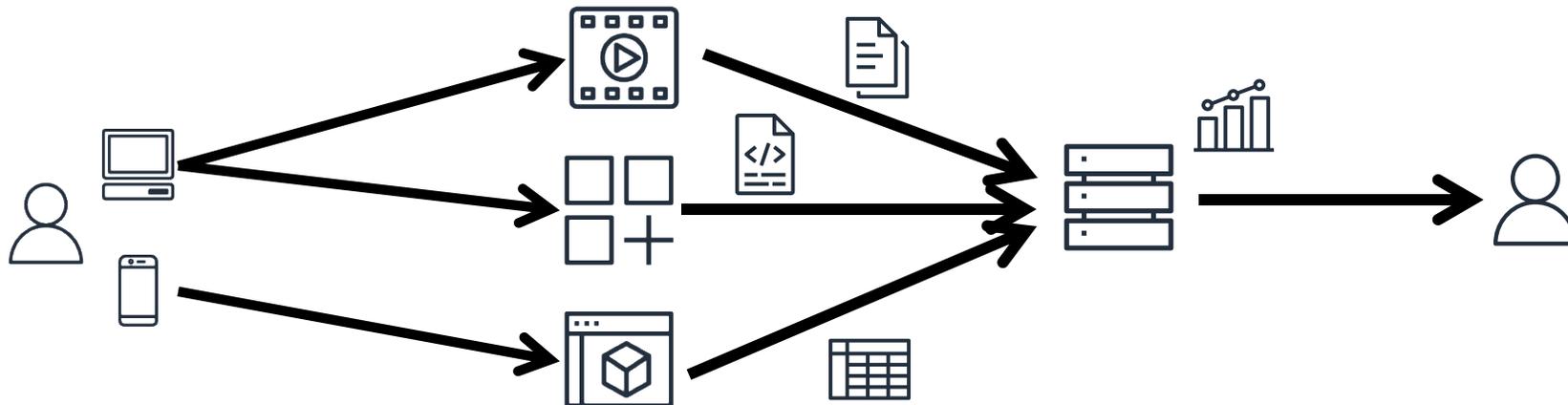


学認SPコミュニティアイデアノート5

ライフログの活用

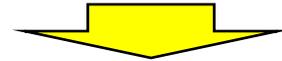
- SPのログ収集によるライフログの収集と活用
- 学生指導(成績不振学生早期発見など)
- 安否確認(認証とサービスの利用に基づく安否確認)

授業への出席状況やLMSでの活動状況、学内外の様々なSPの利用履歴から、学業に問題を抱えている学生を早期に特定。これにより、適切なタイミングでアドバイザーやカウンセラーが介入し学業をサポート。

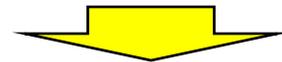


まとめ・お願い

認証が必要となるサービスは、今後増加し多様化することが予想される



認証が必要な SP は学認に対応可能



**学認SPをより発展させるために、
幅広い方々の学認SPコミュニティへの協力をお願いします**